

健康福祉分野

【背景】

（健康福祉・保健・生涯現役関連）

- 地域や家庭、職場等の日常生活の様々な場面において、人と人とのつながりが希薄化し、互いを支え合う基盤が弱まってきている。
- さらに、昨今では、8050問題（※1）やダブルケア（※2）など複合的な支援を必要とする事例やノーマライゼーションの理念の浸透など、住民の福祉に対するニーズはますます多様化、複雑化してきており、対象者別、機能別に整備された相談支援やサービスなど、従来からの公的支援では、十分に対応することが困難なケースが見受けられる。
- また、超高齢社会においては、単に寿命が長いだけでなく、「いかに健康的に過ごすことができる期間を長く保つか」といった「健康寿命（※3）」を延伸することが重要である。

（子ども・子育て関連）

- 核家族世帯や共働き世帯の割合の増加（※4）等に伴い、子育て家庭を取り巻く環境が変化し、子育てへの負担や不安、孤立感を抱える保護者が増えている。
- こうした状況の中、妊娠期から子育て期への切れ目のない支援が求められており、これまでも、全妊婦面接相談、乳幼児健康診査（※5）といった妊産婦・乳幼児の健康づくりへの支援や教育・保育の提供体制の確保（※6）、延長保育の実施といった保育サービスの充実に努めてきたところである。

（環境衛生関連）

- 集団食中毒による健康被害のほか、近年では、新型インフルエンザ等の新たな感染症の発生や、人、物のグローバル化や大規模集客イベントの開催などによる感染症の拡大（※7）が住民の健康の脅威となっている。
- これらの脅威に対応するためには、平時より、健康危機管理体制を整えることや情報共有が重要であり、本市においても、関係機関と連携した体制を構築してきたところである。



【分野目標】 ～命・くらしの支え合い～

高齢者、障害者、子ども、生活困窮者を含むすべての人が、住み慣れた地域において健やかな暮らしと生きがいを共に創り、市民一人ひとりの命を支え合う社会の実現を目指す。

※1 中高年のひきこもり者数（推計）

	全国の推計数 (万人)
ふだんは家にいるが、自分の趣味に関する用事の時だけ外出する	24.8
ふだんは家にいるが、近所のコンビニなどには出かける	27.4
自室からは出るが、家からは出ない	6.5
自室からほとんど出ない	2.6
合計	61.3

(資料) 生活状況に関する調査（平成31年3月）（内閣府）

※2 育児・介護・ダブルケア世帯数（推計）

年	育児世帯(万人) (末子が未就学児)	介護世帯 (万人)	ダブルケア世帯 (万人)
H13	535.2	274.9	13.7
H19	512.1	480.8	18.7
H25	485.4	575.3	16.6

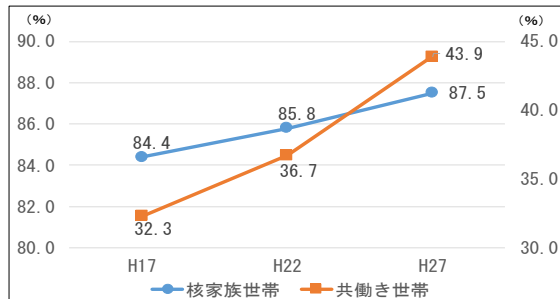
(資料) 平成27年度育児と介護のダブルケアの実態に関する調査（内閣府）

※3 健康寿命の推移

年	姫路市		兵庫県	
	男	女	男	女
H22	77.08	82.51	78.28	83.02
H27	78.76	83.46	79.62	83.96
H27-H22	1.68	0.95	1.34	0.94

(資料) 平成22年及び27年健康寿命算定結果総括表(兵庫県)より作成

※4 核家族世帯及び共働き世帯の割合



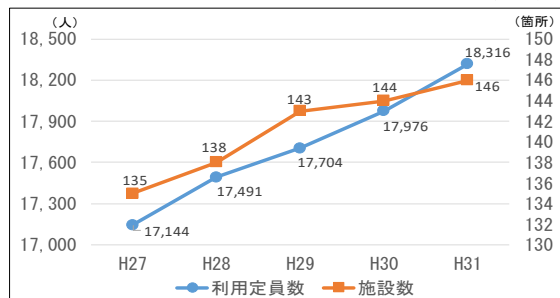
(資料) 平成17年、22年、27年国勢調査より作成

※5 全妊婦面接相談、乳幼児健康診査

年度	妊婦 面接率 (%)	乳幼児健康診査受診率 (%)			
		4か月児	10か月児	1歳6か月児	3歳児
H25	96.4	98.2	94.4	96.4	95.8
H26	96.8	97.6	94.5	97.6	97.4
H27	96.9	98.1	93.7	96.7	97.4
H28	96.6	97.4	94.6	97.5	97.6
H29	97.0	97.6	94.5	97.1	98.1

(資料) 平成30年度保健衛生年報（姫路市）

※6 特定教育・保育施設の利用定員数



(資料) こども政策課

※7 世界・国内で発生した主な感染症

年	感染症名
H15	SARS(重症急性呼吸器症候群)
H21	新型インフルエンザ(H1N1)
H24	MERS(中東呼吸器症候群)
H26	エボラ出血熱
H31(R1)	麻疹

(資料) 厚生労働省資料より作成